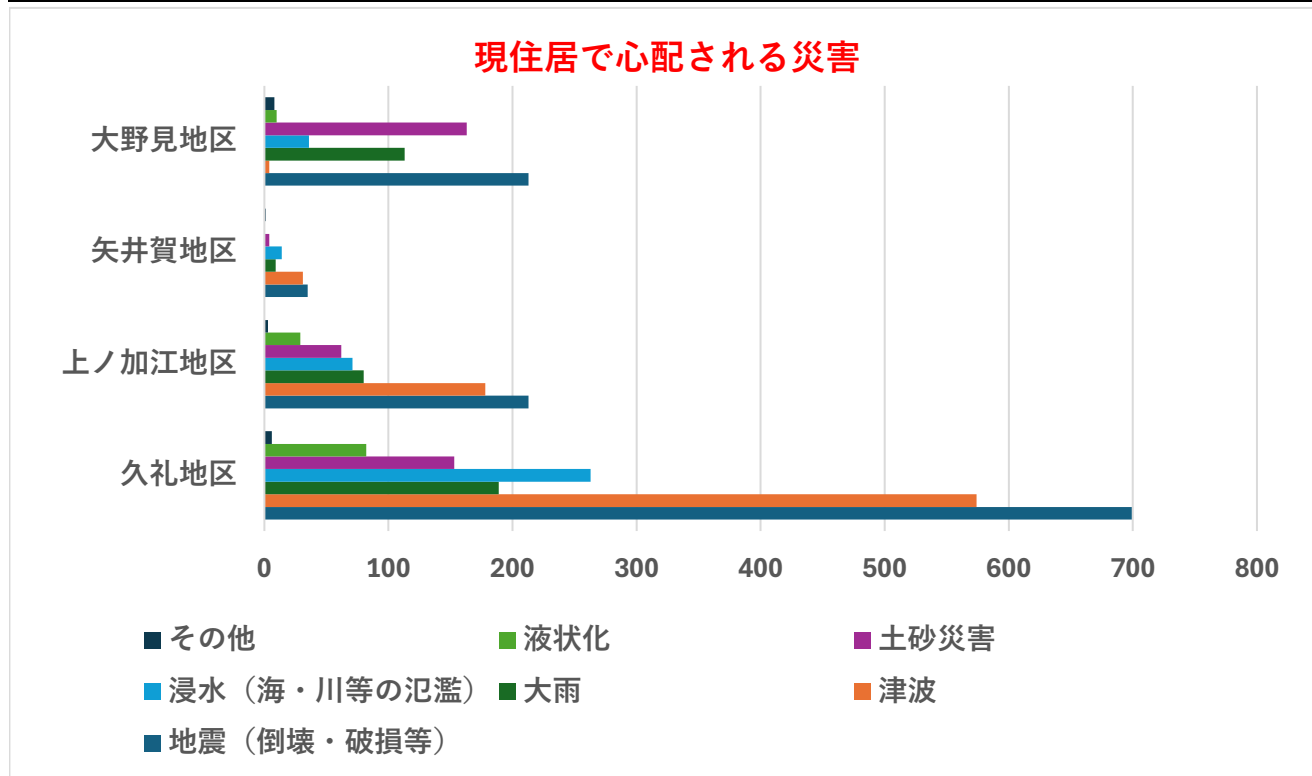


質問 1

	久礼地区	上ノ加江地区	矢井賀地区	大野見地区
地震（倒壊・破損等）	699	213	35	213
津波	574	178	31	4
大雨	189	80	9	113
浸水（海・川等の氾濫）	263	71	14	36
土砂災害	153	62	4	163
液状化	82	29	0	10
その他	6	3	1	8
有効回答数	1966	636	94	547

久礼、上ノ加江、矢井賀の3地区については、地震と津波を心配される人が半数以上を占める結果となっている。また大野見地区については地震と土砂災害、大雨に対する心配が圧倒的に多い結果となっている。

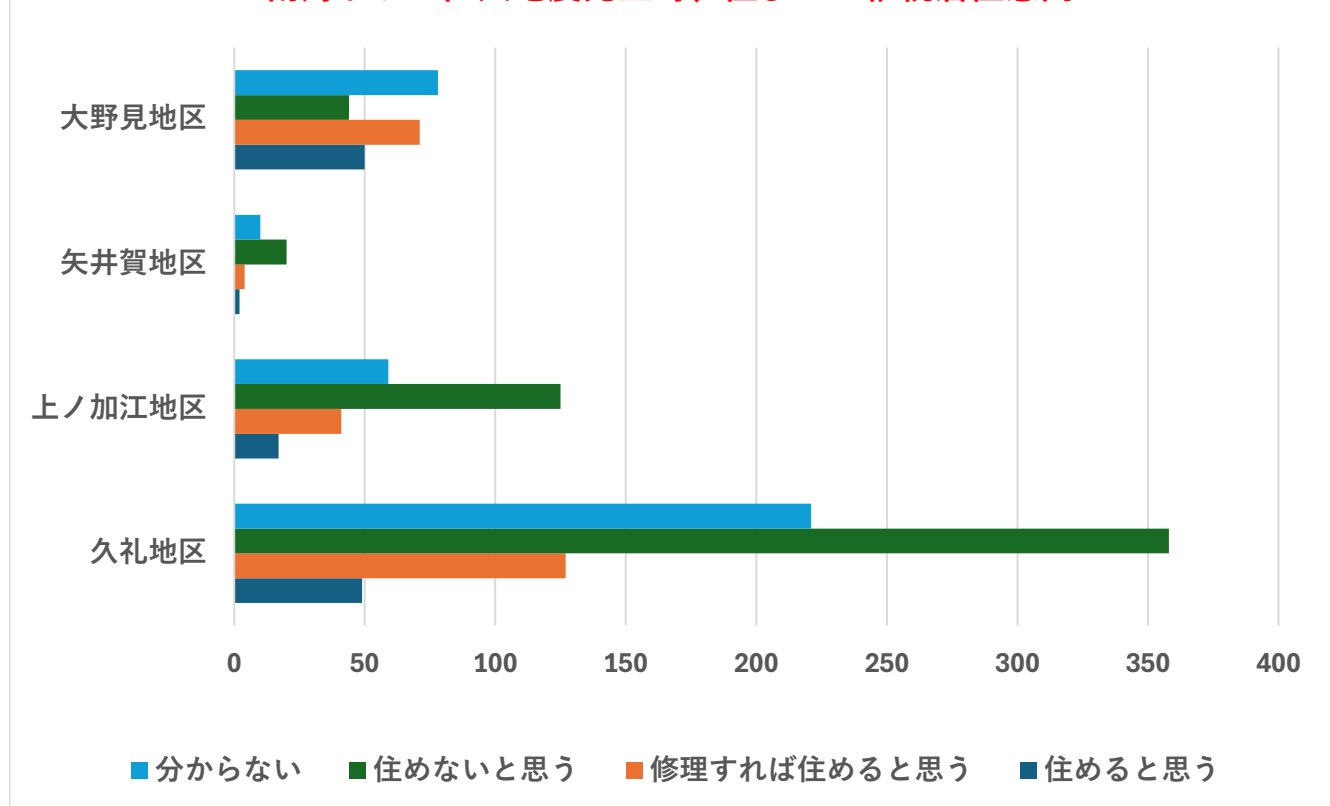
久礼、上ノ加江、矢井賀の3地区は海に面した地区であることから地震と、それに伴って発生する津波による災害を心配していることがうかがえる。大野見地区は中山間部に位置していることから、津波の心配は4件と極端に少ないが、台風時の大雨や強風による土砂災害への心配が顕著に出ている。



質問 2

	久礼地区	上ノ加江地区	矢井賀地区	大野見地区
住めると思う	49	17	2	50
修理すれば住めると思う	127	41	4	71
住めないと思う	358	125	20	44
分からない	221	59	10	78
有効回答数	755	242	36	243

南海トラフ巨大地震発生時、住まいの継続居住意向

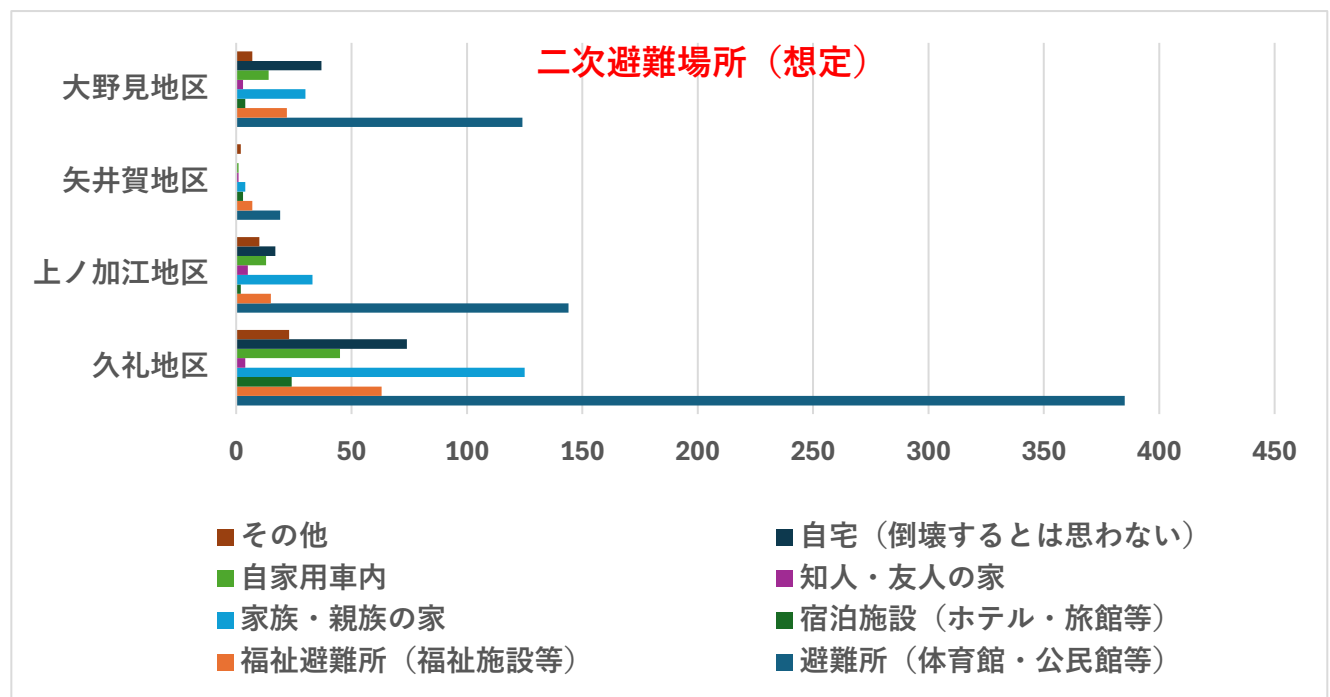


住まいの継続居住意向について、「住めないと思う」と回答した地区が多数を占めたのは久礼、上ノ加江、矢井賀の3地区でいずれも海岸に接している地区である。一方で大野見地区は「住めると思う」と「修理すれば住めると思う」への回答が「住めないと思う」の回答よりも上回っている。

山間部の地区と海岸部の地区とで回答が顕著に表れている。海岸部の地区で「住めないと思う」と回答した方はおそらく津波を想定していることが推測される。また山間部地区の方は台風時の暴風雨や大雨、土砂崩れを想定した回答だと推定される。

質問 3

	久礼地区	上ノ加江地区	矢井賀地区	大野見地区
避難所（体育館・公民館等）	385	144	19	124
福祉避難所（福祉施設等）	63	15	7	22
宿泊施設（ホテル・旅館等）	24	2	3	4
家族・親族の家	125	33	4	30
知人・友人の家	4	5	1	3
自家用車内	45	13	1	14
自宅（倒壊するとは思わない）	74	17	0	37
その他	23	10	2	7
有効回答数	743	239	37	241



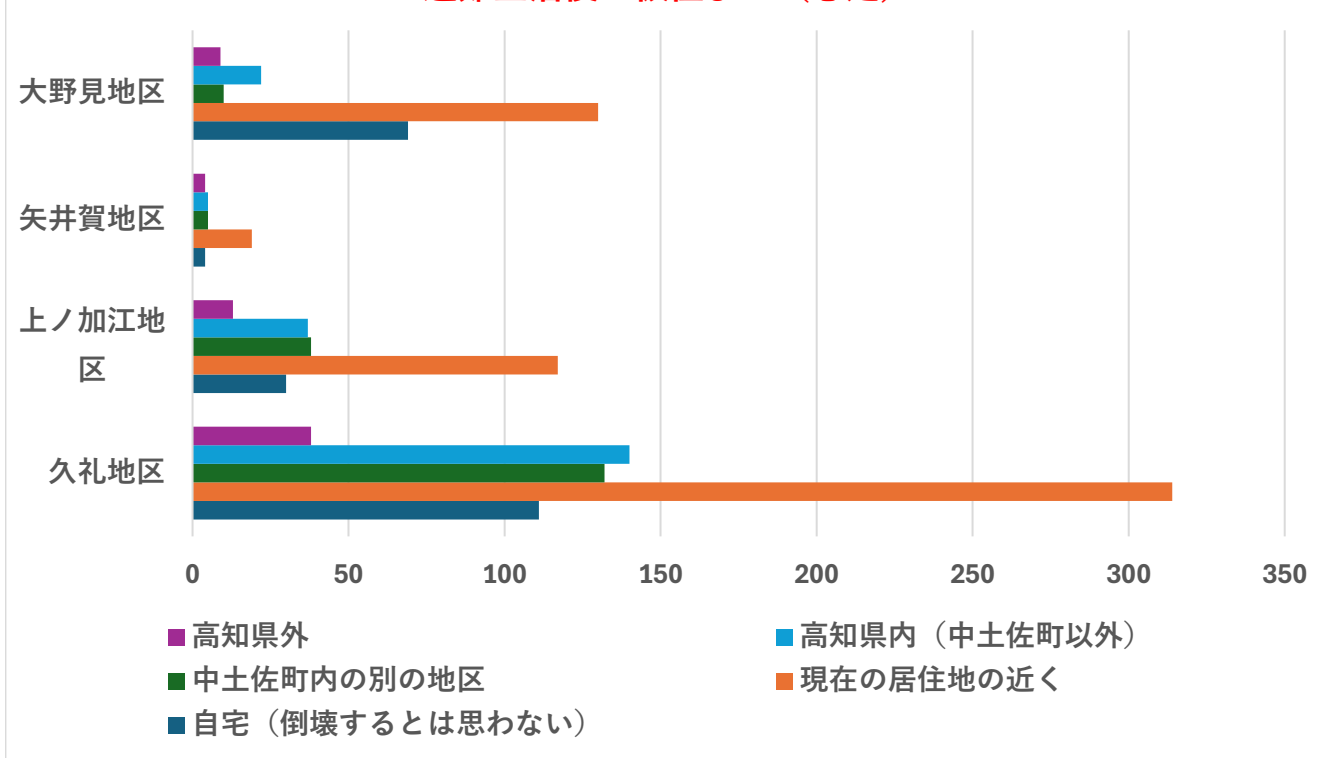
二次避難場所として想定している場所は「避難所（体育館・公民館等）」と回答している方が全ての地区において圧倒的に多い傾向である。次いで、矢井賀地区以外は「家族・親族の家」の割合が多いことを示している。

「福祉避難所（福祉施設等）」及び「宿泊施設（ホテル・旅館等）」と回答された方は、久礼地区の方が比較的多い。このことは、久礼地区が他の3地区と比較してもその施設が多いためと推測できる。

質問 4

	久礼地区	上ノ加江地区	矢井賀地区	大野見地区
自宅（倒壊するとは思わない）	111	30	4	69
現在の居住地の近く	314	117	19	130
中土佐町内の別の地区	132	38	5	10
高知県内（中土佐町以外）	140	37	5	22
高知県外	38	13	4	9
有効回答数	735	235	37	240

避難生活後の仮住まい（想定）



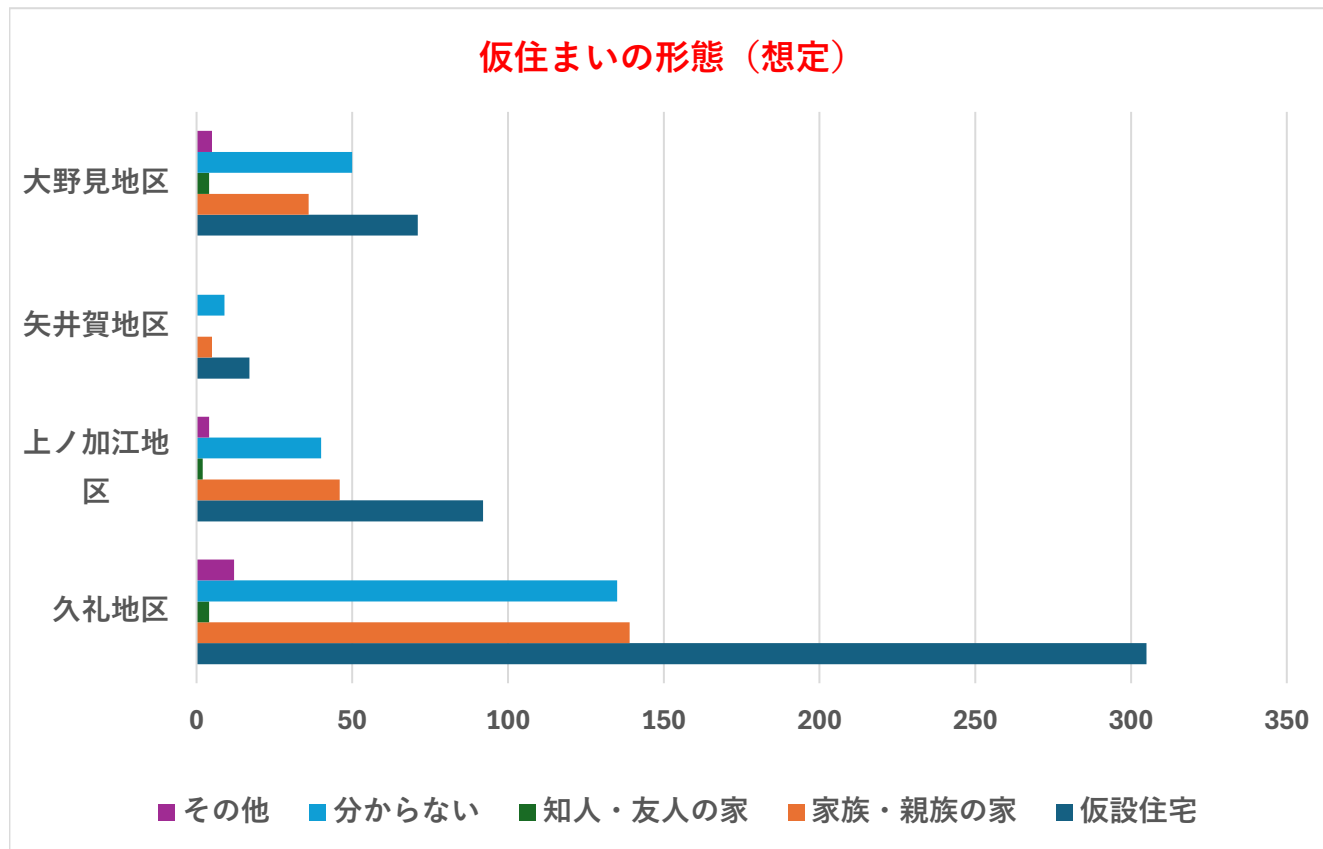
避難生活後の仮住まい（想定）については、全ての年代において「現在の居住地の近く」と回答された地区が多く久礼地区以外ではこの回答割合が突出しており、全体割合の半数近くを占めている。次いで、大野見地区では「自宅（倒壊するとは思わない）」と回答された方の割合が多い結果となっている。

津波の心配がない山間部の大野見地区やその他の地区でも津波到達の被害が少ないと見込まれる方は、自宅の災害耐性についてある程度の自信を持っていることがうかがわれる。

質問 5

	久礼地区	上ノ加江地区	矢井賀地区	大野見地区
仮設住宅	305	92	17	71
家族・親族の家	139	46	5	36
知人・友人の家	4	2	0	4
分からない	135	40	9	50
その他	12	4	0	5
有効回答数	595	184	31	166

仮住まいの形態（想定）については、全ての地区において「仮設住宅」と回答した方が多くなっている。また、「家族・親族の家」と「分からない」との全体割合はほぼ同数であり、「知人・友人の家」と回答した方は、全ての年代の方において割合は僅かであった。

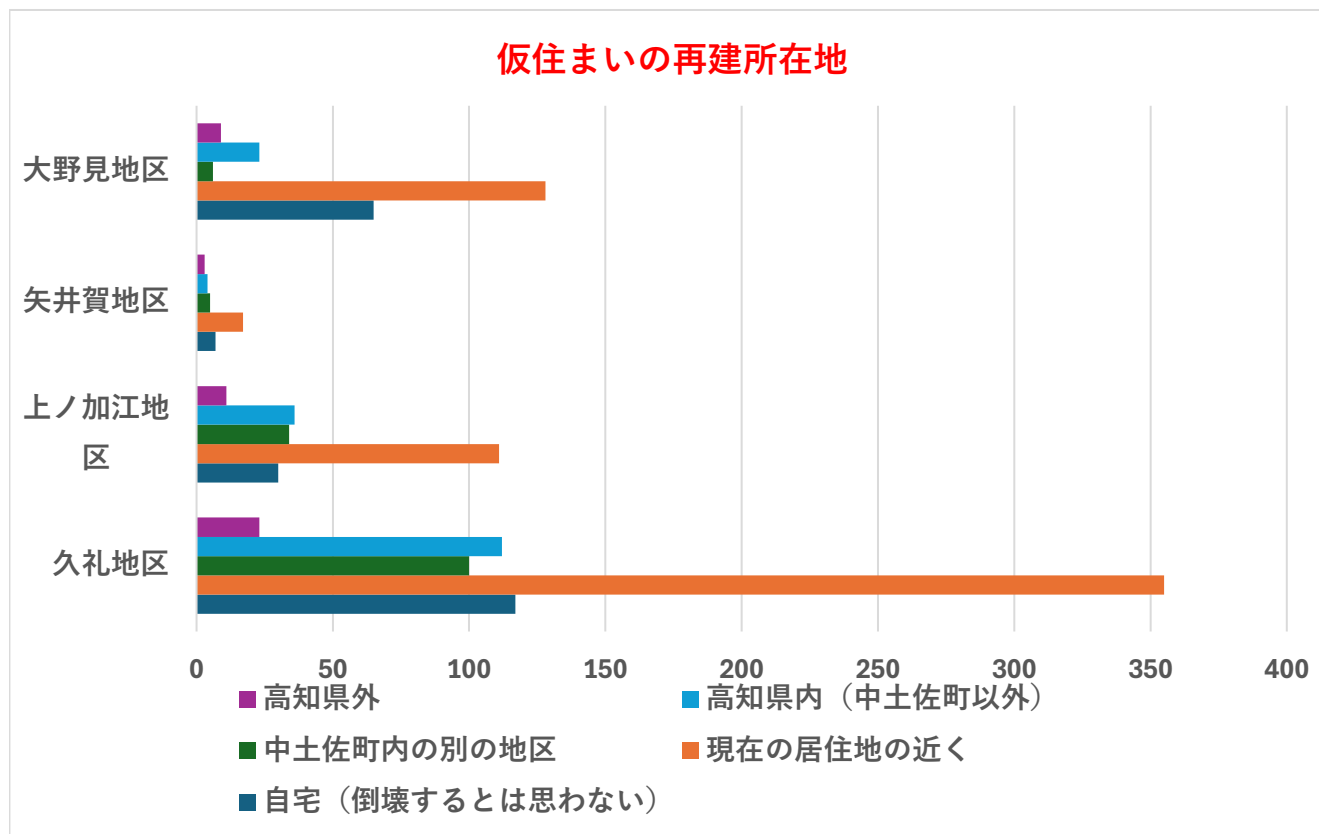


「親族・家族の家」と「分からない」が拮抗しているが、身内を頼る方向性の方と、現時点で、仮住まいの形態を決めかねている方が同数程度と推測される。

質問 6

	久礼地区	上ノ加江地区	矢井賀地区	大野見地区
自宅（倒壊するとは思わない）	117	30	7	65
現在の居住地の近く	355	111	17	128
中土佐町内の別の地区	100	34	5	6
高知県内（中土佐町以外）	112	36	4	23
高知県外	23	11	3	9
有効回答数	707	222	36	231

仮住まいの再建所在地については、全ての地区において、「現在の居住地の近く」の割合が一番多い結果となった。特に久礼地区以外の3地区について顕著に表れた結果となっている。久礼地区の方については、「現在の居住地の近く」以外で再建志向の方の割合も多くみられる。

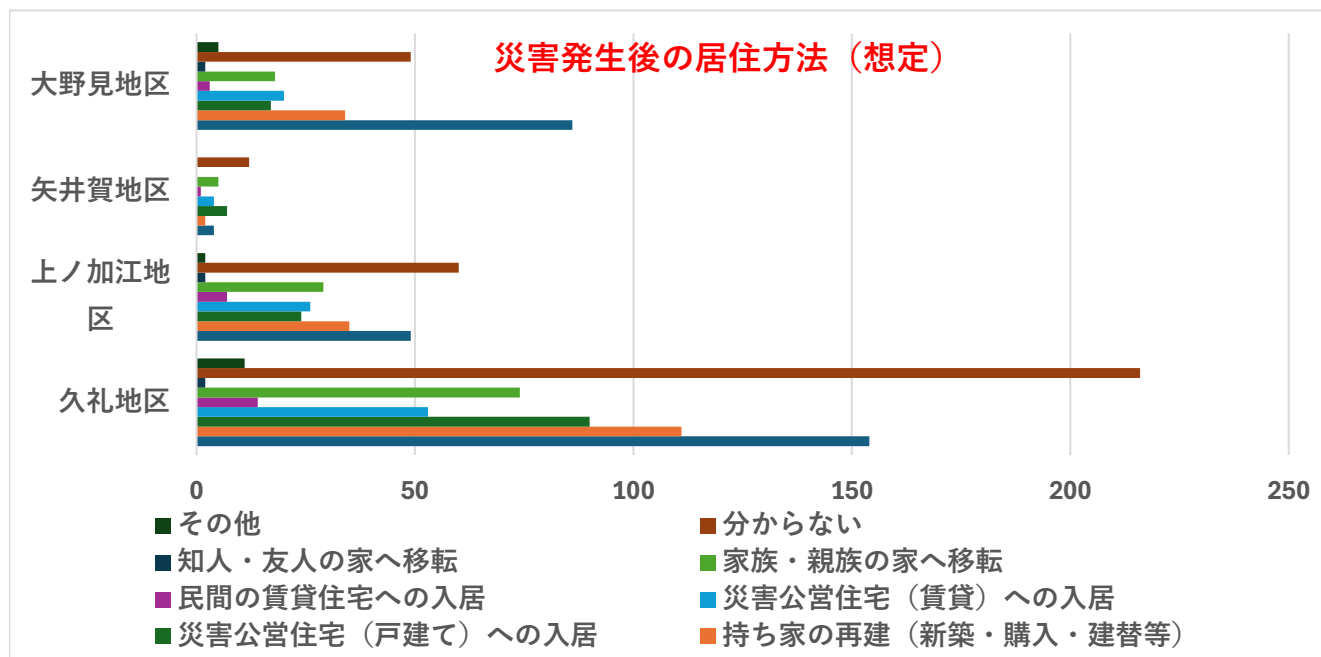


現在住まいをされている地区から、できるだけ離れたくないという地元志向が強い。しかし一方で、久礼地区は人口が集中している地域でもあり、余震などの二次災害の懸念からと高知県内あるいは高知県外と回答されたと推測する。

質問 7

	久礼地区	上ノ加江地区	矢井賀地区	大野見地区
現在の居住地（自宅）	154	49	4	86
持ち家の再建（新築・購入・建替等）	111	35	2	34
災害公営住宅（戸建て）への入居	90	24	7	17
災害公営住宅（賃貸）への入居	53	26	4	20
民間の賃貸住宅への入居	14	7	1	3
家族・親族の家へ移転	74	29	5	18
知人・友人の家へ移転	2	2	0	2
分からない	216	60	12	49
その他	11	2	0	5
有効回答数	725	234	35	234

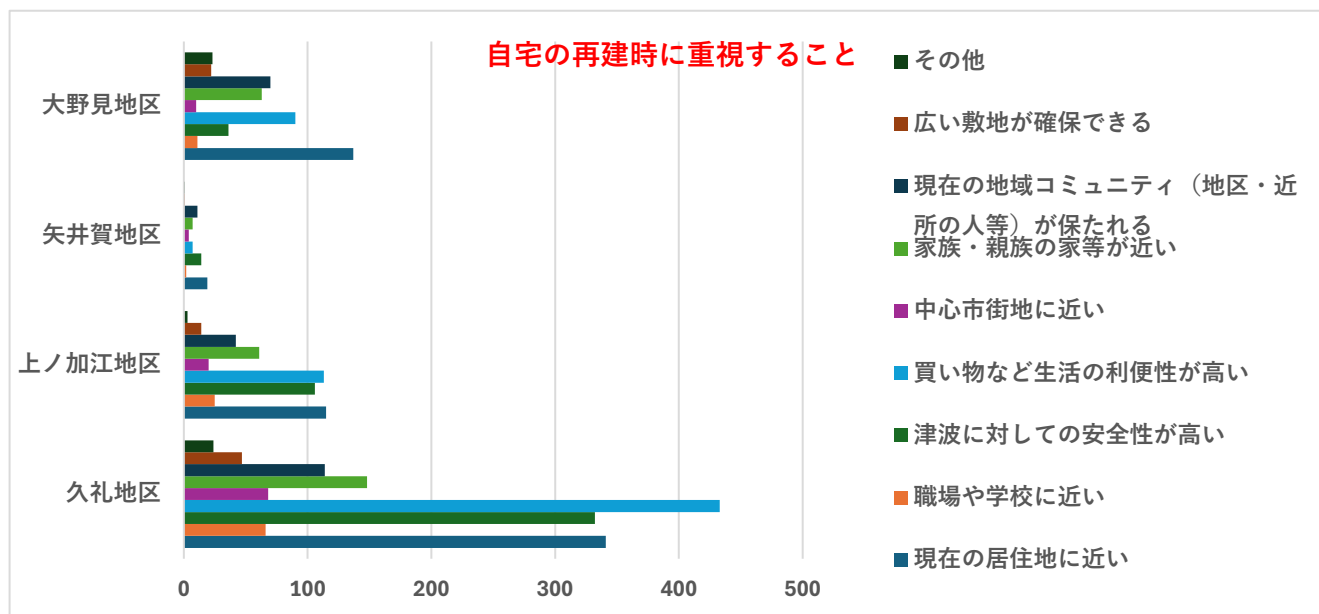
災害発生後の居住方法（想定）については「分からない」の回答割合が、大野見地区を除いて一番多くを占める結果となっている。また「現在の居住地（自宅）」と回答した地区は大野見地区が最も多く、次いで久礼地区、上ノ加江地区となっている。また「災害公営住宅（戸建て）への入居」、「家族・親族の家への移転」の回答割合が同数程度となっている。



「分からない」と回答された地区が多数を占めた久礼、上ノ加江、矢井賀の3地区は、津波災害の不確実性からきているもので、具体的に被災後の生活のイメージができていないためだと推測する。

質問 8

	久礼地区	上ノ加江地区	矢井賀地区	大野見地区
現在の居住地に近い	341	115	19	137
職場や学校に近い	66	25	2	11
津波に対しての安全性が高い	332	106	14	36
買い物など生活の利便性が高い	433	113	7	90
中心市街地に近い	68	20	4	10
家族・親族の家等が近い	148	61	7	63
現在の地域コミュニティ（地区・近所の人等）が保たれる	114	42	11	70
広い敷地が確保できる	47	14	1	22
その他	24	3	1	23
有効回答数	1573	499	66	462



自宅の再建時に重視することについては、「津波に対しての安全性が高い」の回答割合が久礼、上ノ加江、矢井賀の3地区でそれぞれ20%程度の回答となっていることに対して、大野見地区は7%程度となっている。また「現在の居住地に近い」の回答割合も同様であるが、大野見地区は30%近い回答率となっている。

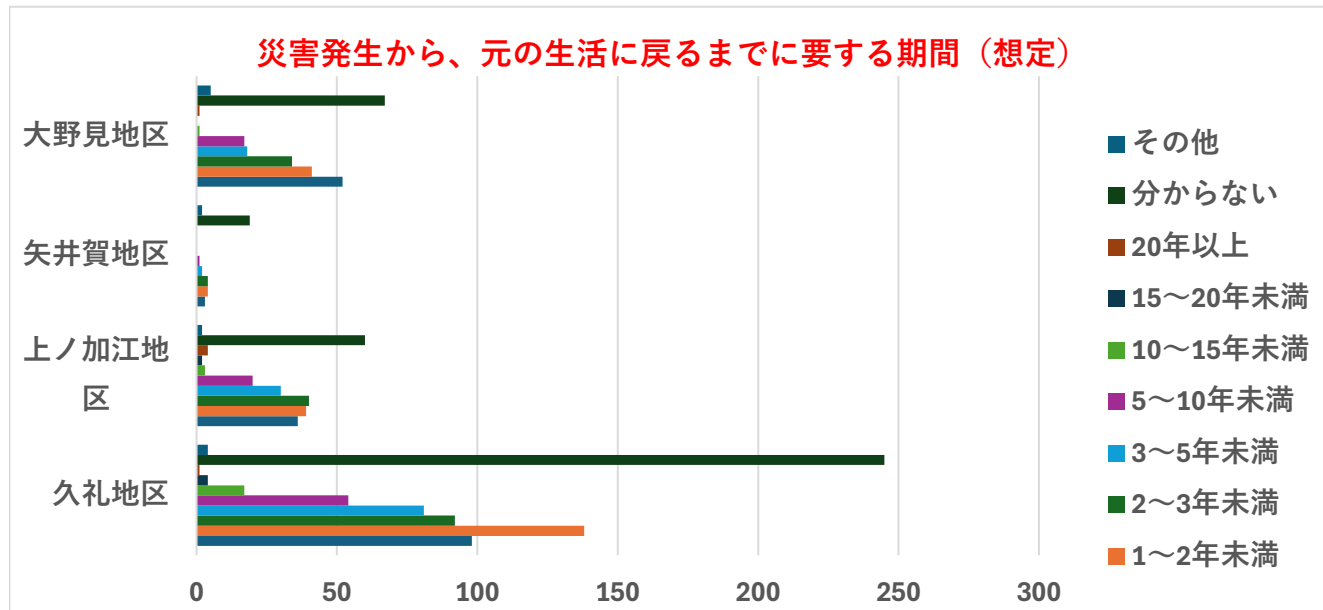
また「買い物など生活の利便性が高い」の回答割合が全体で最も高く、特に久礼地区での回答割合が高い結果となっている。一方で、「現在のコミュニティ（地区・近所の人等）が保たれる」の回答率が15%と他の3地区と比較して高い結果となっている。

海岸近くの中心市街地近くの方は生活に直結した再建方法あるいは津波に対して安全である再建方法、山間部の地域の方はご近所付き合いが可能な再建方法を希望していることが推測できる。

質問 9

	久礼地区	上ノ加江地区	矢井賀地区	大野見地区
1年未満	98	36	3	52
1～2年未満	138	39	4	41
2～3年未満	92	40	4	34
3～5年未満	81	30	2	18
5～10年未満	54	20	1	17
10～15年未満	17	3	0	1
15～20年未満	4	2	0	0
20年以上	1	4	0	1
分からない	245	60	19	67
その他	4	2	2	5
有効回答数	734	236	35	236

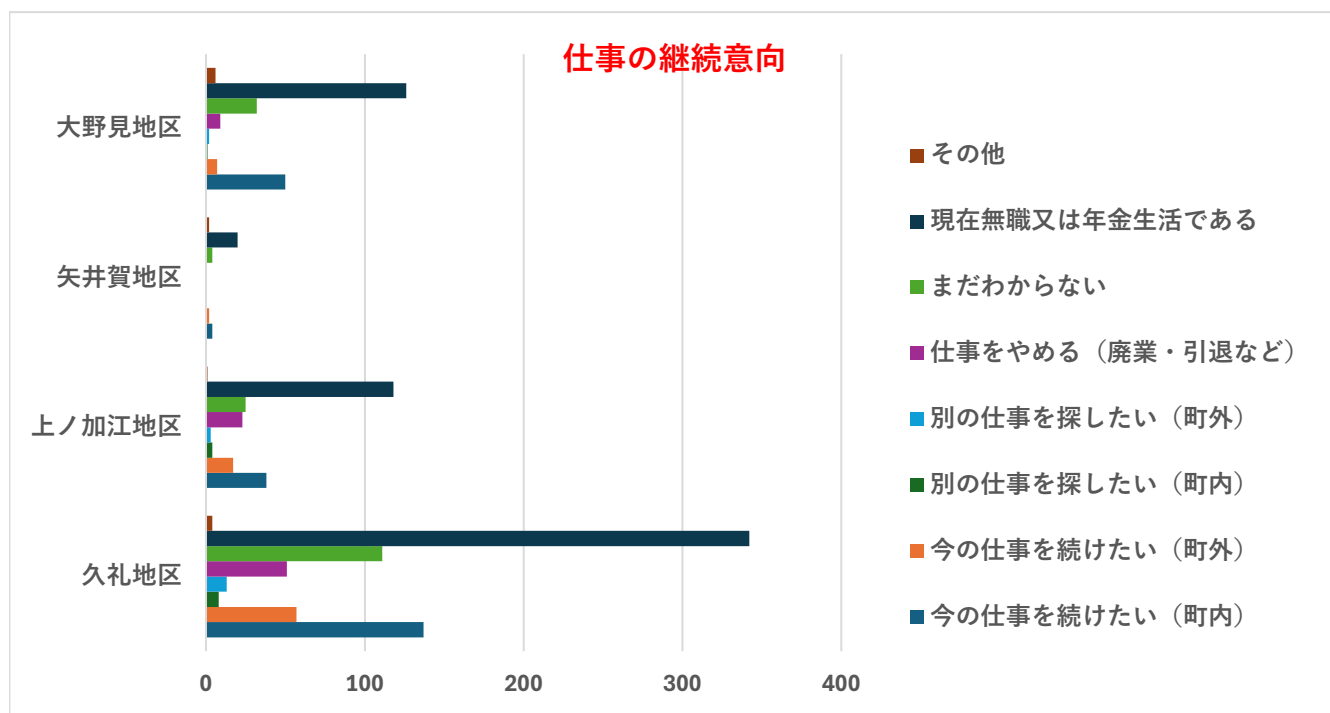
災害発生から、元の生活に戻るまでに要する期間（想定）について、全ての地区で「分からない」という回答が多数を占める結果となっている。次いで「1年未満」の回答割合が大野見地区で多く、「1～2年未満」の回答は、久礼地区に多く見られた。全体の年代別を通して「分からない」以外の回答を見ても、「5～10年未満」までを想定する回答が圧倒的に多く、それ以上の期間を要するという回答は少数であった。



全体として少数だが、「10～15年未満」以上の回答は久礼地区など海岸部の地区に多く、津波の被害を想定したものと推測する。その他の意見にもあったが、災害の規模にもよるので「分からない」という回答もあることから、実際に発生してみないと分からないという回答者が多くを占めた結果と言える。

質問 10

	久礼地区	上ノ加江地区	矢井賀地区	大野見地区
今の仕事を続けたい（町内）	137	38	4	50
今の仕事を続けたい（町外）	57	17	2	7
別の仕事を探したい（町内）	8	4	0	1
別の仕事を探したい（町外）	13	3	0	2
仕事をやめる（廃業・引退など）	51	23	0	9
まだわからない	111	25	4	32
現在無職又は年金生活である	342	118	20	126
その他	4	1	2	6
有効回答数	723	229	32	233



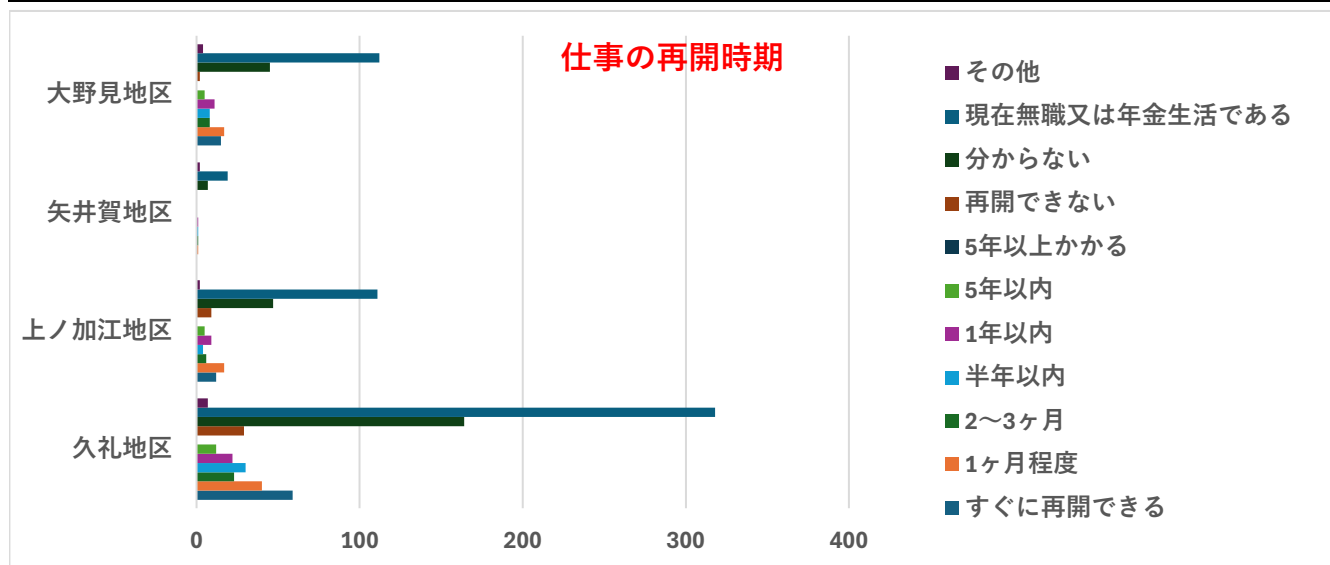
仕事の継続意向について、全体として「現在無職又は年金生活である」の回答が約半数を占めている。これは回答者の7割強が高齢者層であることも理由になる。

有職者の多くは、全ての地区において「今の仕事を続けたい（町内）」が多い結果となっている。一方で「別の仕事を探したい」という回答は、久礼や上ノ加江地区で回答者もあるが、ごく少数であった。

全ての地区の有職者は、今の仕事を継続したいという意向がうかがえる。また同時に「まだわからない」も全ての地区で10%～15%程度の回答があり、職種によっては別の仕事を探したいという選択肢も検討の余地ありということが推定される。また、「仕事をやめる（廃業・引退など）」の回答は高齢化あるいは年金受給予定であるためと推測する。

質問 1 1

	久礼地区	上ノ加江地区	矢井賀地区	大野見地区
すぐに再開できる	59	12	0	15
1ヶ月程度	40	17	1	17
2～3ヶ月	23	6	1	8
半年以内	30	4	1	8
1年以内	22	9	1	11
5年以内	12	5	0	5
5年以上かかる	0	0	0	0
再開できない	29	9	0	2
分からない	164	47	7	45
現在無職又は年金生活である	318	111	19	112
その他	7	2	2	4
有効回答数	704	222	32	227



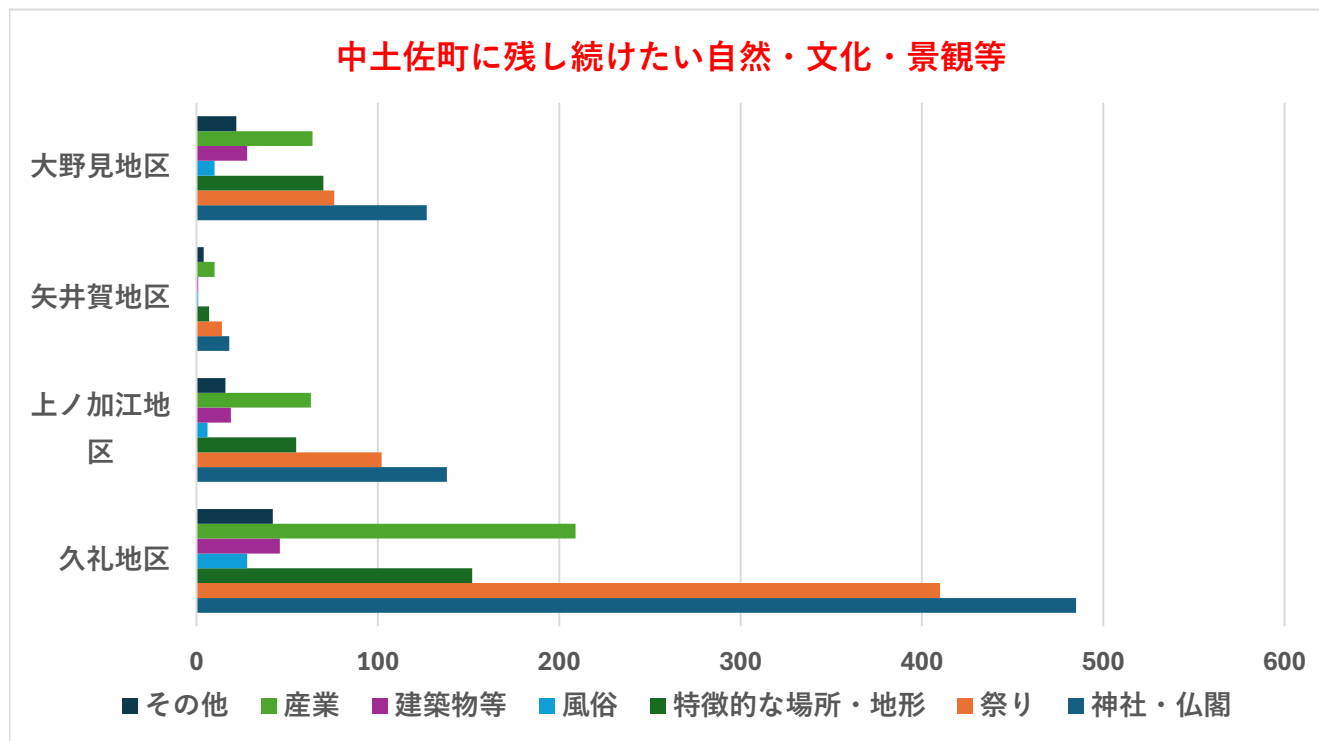
仕事の再開時期として、「現在無職又は年金生活である」が全体の半数近くを占めている。理由は前問と同様に高齢者層の回答者が多くを占めている結果だと言える。再開に「5年以上かかる」と回答した地区はなく、概ね5年以内には再開できるという回答結果であった。

「再開できない」という回答割合が久礼地区と上ノ加江地区で約4%あった。津波での壊滅的被害の想定あるいは高齢のための廃業・引退のどちらかと推測する。また「分からない」の回答が全ての地区において2番目に多く、被災後に元の生活に戻れる期間や勤務先の存続等の不確定要素が多いためではないかと推測する。

質問 1 2

	久礼地区	上ノ加江地区	矢井賀地区	大野見地区
神社・仏閣	485	138	18	127
祭り	410	102	14	76
特徴的な場所・地形	152	55	7	70
風俗	28	6	1	10
建築物等	46	19	1	28
産業	209	63	10	64
その他	42	16	4	22
有効回答数	1372	399	55	397

中土佐町に残し続けたい自然・文化・景観等について、「神社・仏閣」及び「祭り」が回答者全体の約6割を占めており、全ての地区においても同様の結果となった。次いで「産業」の回答が久礼、上ノ加江、矢井賀で多く、大野見地区では「特徴的な場所・地形」という結果になった。

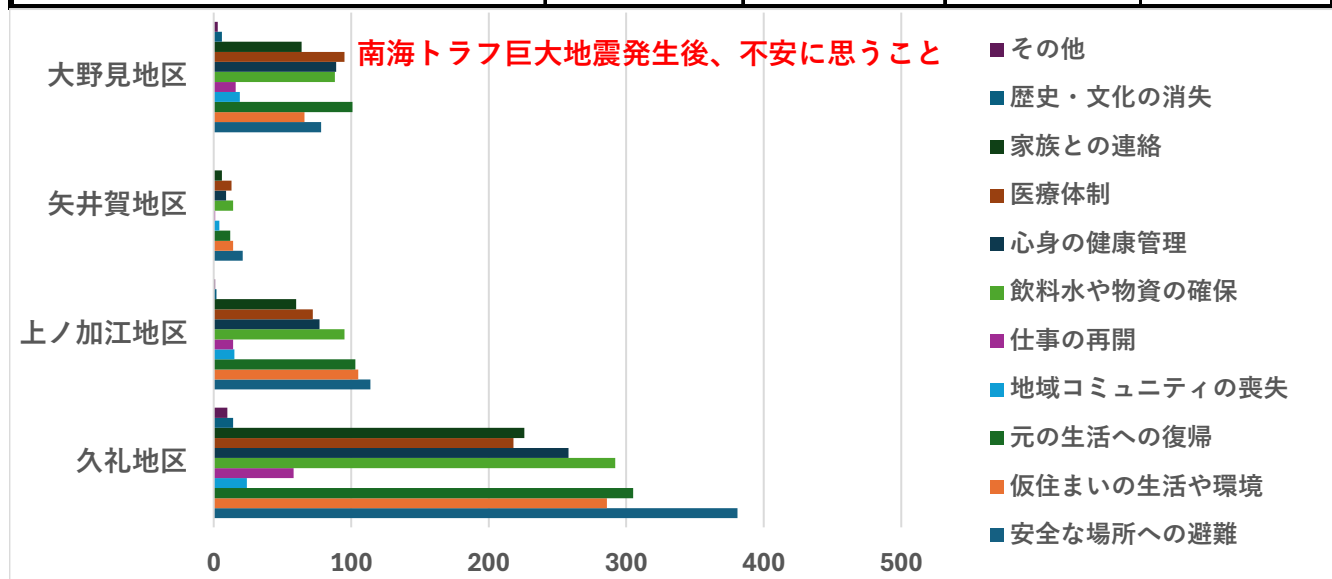


中土佐町内の久礼地区には、土佐三大祭りの一つである久礼八幡宮大祭があること、カツオ産業が有名であることからこの結果が推測される。

また大野見地区は四万十川源流地域であり、沈下橋等が有名であることから「特徴的な場所・地形」が上位になったと推定される。

質問 1 4

	久礼地区	上ノ加江地区	矢井賀地区	大野見地区
安全な場所への避難	381	114	21	78
仮住まいの生活や環境	286	105	14	66
元の生活への復帰	305	103	12	101
地域コミュニティの喪失	24	15	4	19
仕事の再開	58	14	1	16
飲料水や物資の確保	292	95	14	88
心身の健康管理	258	77	9	89
医療体制	218	72	13	95
家族との連絡	226	60	6	64
歴史・文化の消失	14	2	0	6
その他	10	1	0	3
有効回答数	2072	658	94	625

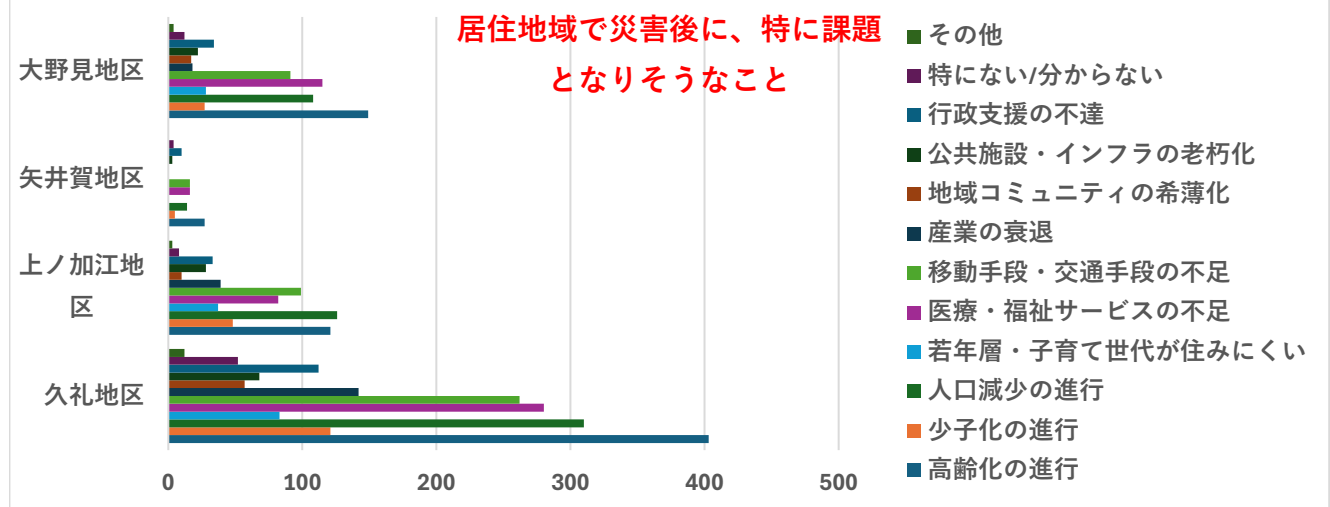


南海トラフ巨大地震発生後、不安に思うことについて、「安全な場所への避難」への回答が久礼、上ノ加江、矢井賀で多く、大野見地区は「元の生活への復帰」への回答が多く見られた。また70代以上は「安全な場所への避難」という回答が最も多かった。

全ての地区に言えるが、「地域コミュニティの喪失」や「歴史・文化の消失」と回答した地区は少数にとどまっており、住環境や生活環境、物資や医療、自身や家族に対しての不安が大部分を占めている結果となっている。

質問 1 5

	久礼地区	上ノ加江地区	矢井賀地区	大野見地区
高齢化の進行	403	121	27	149
少子化の進行	121	48	5	27
人口減少の進行	310	126	14	108
若年層・子育て世代が住みにくい	83	37	0	28
医療・福祉サービスの不足	280	82	16	115
移動手段・交通手段の不足	262	99	16	91
産業の衰退	142	39	0	18
地域コミュニティの希薄化	57	10	0	17
公共施設・インフラの老朽化	68	28	3	22
行政支援の不達	112	33	10	34
特にない/分からない	52	8	4	12
その他	12	3	0	4
有効回答数	1902	634	95	625



居住地域で災害後に、課題となりそうなことについて、「高齢化の進行」「人口減少の進行」についての回答割合が全ての地区において高くなっている。次いで「医療・福祉サービスの不足」及び「移動手段・交通手段の不足」の回答割合が、やはり全ての地区において多いという結果になっている。

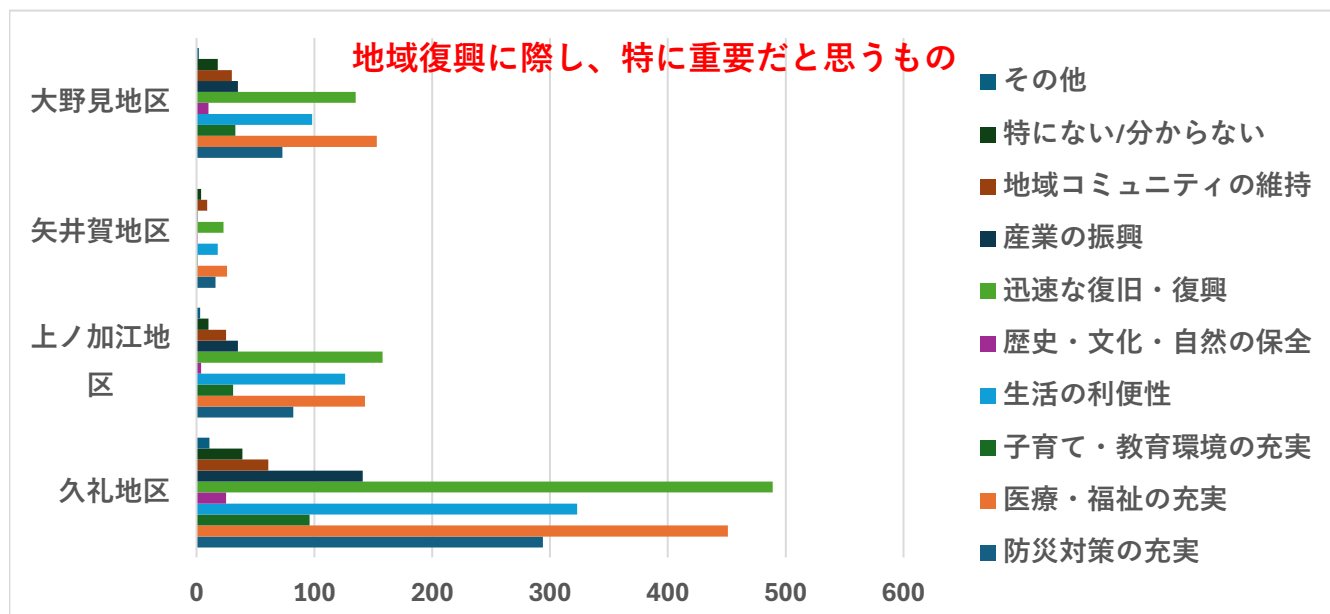
少子高齢化に伴う人口の自然減は加速度的な速さで進行しており、災害後は若い世代が町外に出てしまい後継者や次世代の担い手がと少なくなるのではという危惧感の表れと推定する。それに伴う医療・公共サービス等の低下を懸念しているものと推定する。

質問 1 6

	久礼地区	上ノ加江地区	矢井賀地区	大野見地区
防災対策の充実	294	82	16	73
医療・福祉の充実	451	143	26	153
子育て・教育環境の充実	96	31	1	33
生活の利便性	323	126	18	98
歴史・文化・自然の保全	25	4	1	10
迅速な復旧・復興	489	158	23	135
産業の振興	141	35	1	35
地域コミュニティの維持	61	25	9	30
特にない/分からない	39	10	4	18
その他	11	3	0	2
有効回答数	1930	617	99	587

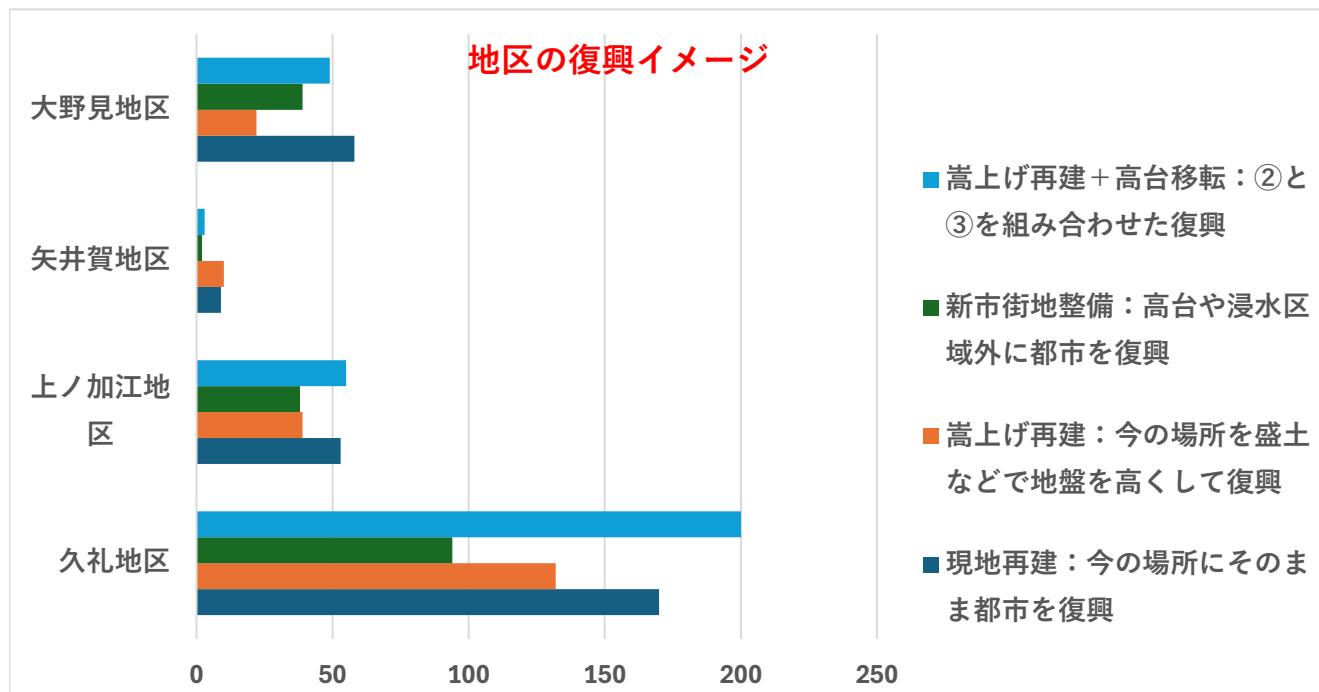
地域復興に際し、特に重要だと思うものについて、「迅速な復旧・復興」の回答が久礼地区、上ノ加江地区で多く、「医療・福祉の充実」の回答が矢井賀地区、大野見地区多い結果となった。また全体においてもこれら2つの項目で回答数の約半数となっている。次いで3番目に多い回答となったのが全地区において「生活の利便性」であった。

迅速な復興事業と並行して、かつ医療、生活に支障をきたすことのないようなことが重要だと思っていることがうかがわれる。



質問 1 7

	久礼地区	上ノ加江地区	矢井賀地区	大野見地区
現地再建：今の場所にそのまま都市を復興	170	53	9	58
嵩上げ再建：今の場所を盛土などで地盤を高くして復興	132	39	10	22
新市街地整備：高台や浸水区域外に都市を復興	94	38	2	39
嵩上げ再建 + 高台移転：②と③を組み合わせた復興	200	55	3	49
有効回答数	596	185	24	168

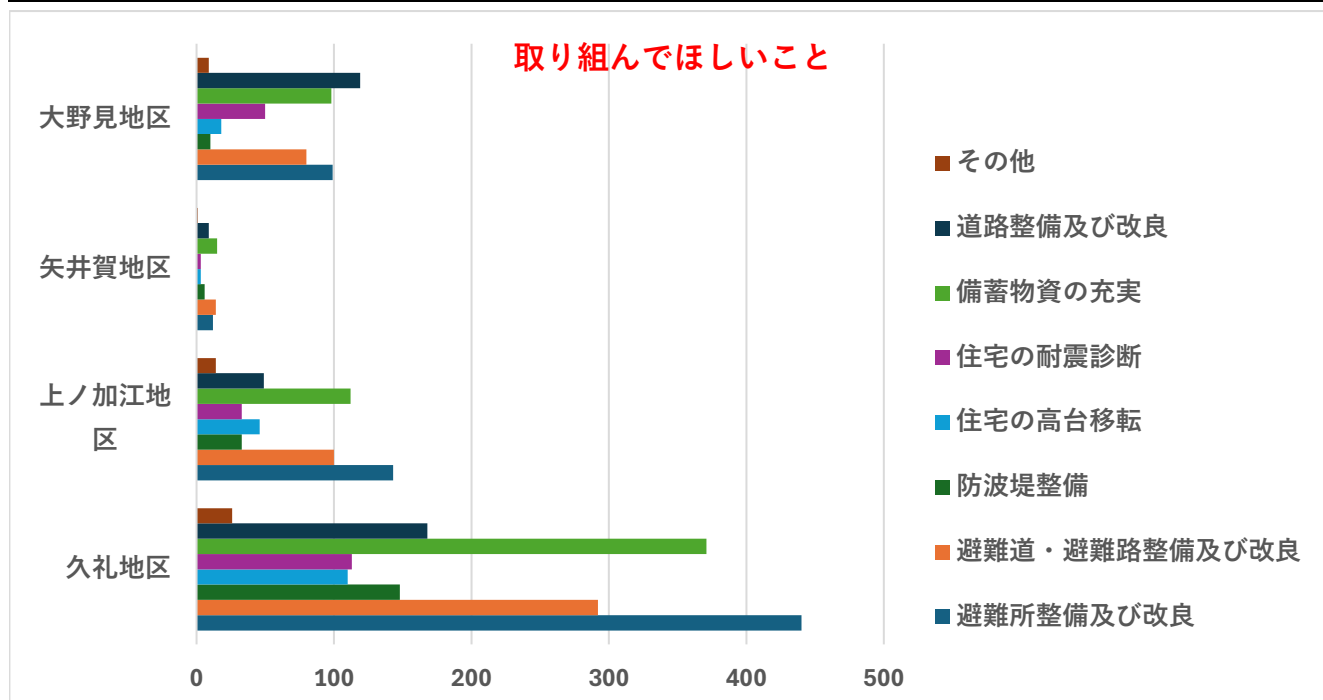


地区の復興イメージについて、「嵩上げ再建 + 高台移転」と回答された地区は久礼地区と上ノ加江地区が最も多く、大野見地区は「現地再建」、矢井賀地区は「嵩上げ再建」という回答が最も多かった。しかし、各地区において復興イメージへの回答結果に極端なばらつきは生じていない。

久礼、上ノ加江、矢井賀の3地区は嵩上げを念頭に置いた回答が多いことから、津波を想定していることが推測される。一方で大野見地区でも、「嵩上げ再建」や「嵩上げ + 高台移転」の回答も多いが、海岸沿いの地区の観点から復興イメージとして回答された方も多いと思われる。また当該質問に未記載の回答者も多数存在し、復興のイメージ像が十分に伝わっていないとも言える。

質問 1 8

	久礼地区	上ノ加江地区	矢井賀地区	大野見地区
避難所整備及び改良	440	143	12	99
避難道・避難路整備及び改良	292	100	14	80
防波堤整備	148	33	6	10
住宅の高台移転	110	46	3	18
住宅の耐震診断	113	33	3	50
備蓄物資の充実	371	112	15	98
道路整備及び改良	168	49	9	119
その他	26	14	1	9
有効回答数	1668	530	63	483



町に取り組んでほしいことについて、「避難所整備及び改良」の回答が久礼地区、上ノ加江地区において多く、矢井賀地区では「備蓄物資の充実」、大野見地区では「道路整備及び改良」の回答が多いという結果になった。これらの3項目が4地区においても上位を占める結果となった。

「避難所整備及び改良」の回答が多かった地区は、中土佐町でも人口が多い地区であり一時的に避難生活をする場所であることから設備関係等の設置要望が多かったもの推測される。大野見地区については、土砂崩れ等で道路が寸断されると、集落が孤立化されてしまう恐れがあることから「道路整備及び改良」の回答が多かったものと推測できる。